

まずは、管理棟北側に植樹されている「アメリカ帰りの桜（そめいよしの）」へ行ってみました。丁度満開です。傘をさしながら桜のトンネルを歩くのは、それなりの情緒味がありました。家族連れでも見に来ていました。

春日さんが「花全体が白いと、まだ散らない。花の真ん中が赤くなると散りはじめるよ。」と教えてくれました。

五色桜は蕾をたくさんつけ、これからのようでした。黄桜は咲いていました。お酒の名前で有名ですが、私は初めて伊興小で見て「本当に、黄色い桜があるんだ！」と、ビックリしたことを覚えています。

野菜園を通り、荒川土手に着くと、眼下に足立区の花であるチューリップでアートが描かれていました。が、寒さのせいでしょうか、花びらはこれからのようでした。

このチューリップは、全部で35000本が植えられているそうです。

○カブトムシの配布

今年は、95匹。

雨で寒い中にもかかわらず、9家族・スタッフをあわせると30人も集まってくれました。久しぶりに元気なみなさんの顔を見ると、心からうれしくなりました。

山本さんは、生まれて4ヶ月の「れんと（蓮士）」くんを連れてきてくれました。お母さんに抱かれて、スヤスヤ眠っていました。ピカピカの1年生は、山岸拓未くんです。お兄さんの諒也くんといっしょです。

いよいよ、カブトムシの配布です。みかん箱から開けられて、腐葉土の上に白く太い毛虫のような物体がてんと現れてきました。全部で95匹です。我孫子の竹チップの中で成長したものです。

里山の中で真竹がどんどん増えてきました。それらを間引きし、機械でチップ状にして積んでおきます。すると、9月頃、どこからか成虫のカブトムシが飛んで来て卵を産みます。竹チップを食べ、どんどん大きくなり、3月頃には7cmにも成長します。

「そろそろのらえもんの花見が近づいてきたな」と思うと、私は自転車にゴム手袋・移植ごて・ビニール袋を積んで、ルンルン気分です。里山に向かいます。

竹チップの表面を、先ず観察します。カブトムシの黒いウンチにねらいを定め、その回りを移植ごてで少しずつ掘っていきます。深い所より浅い位置にいることが多いようです。とにかく、エサのある所にいるのです。見つけると、もう手が止まりません。見つけることが楽しくなり、「今日は、何匹でやめようかな？」と自問してしまいます。

ついでに、ウンチのたくさん含まれた土は、畑に持っていきます。

自転車の荷台と前の籠にこれらを載せると、けっこうな重さになり、誤って荷崩れを起こしたら大変です。ゆっくりゆっくりペダルを踏んでいくのです。

のらえもんの子どもたちが楽しみにしていると思うと、私のカブトムシ採集は、まだまだ続きそうです。